

学園だより

Vol. 75

2004.12
Nara Women's
University



秋深まる記念館(文学部 武藤康弘助教授)

学生生活案内 15

広部奨学金授与式
授業料免除についてのお知らせ
第42回近畿地区国立大学体育大会結果について
学長からの表彰制度が発足
外国人留学生による日本語スピーチ大会
学長主催留学生懇親会
外国人留学生実地見学旅行

シリーズ 情報と人間を考える 1

数理を通して存在を考える

高須夫悟

教養広場 Liberal arts Forum 3

恐山小景

水垣源太郎

たまごろがし競走のあとに

坂口修一

フレンチ パラドックスと医食同源

井上裕康

寄稿 私のチャレンジ 6

福本 洋・西村亜希子・鶴田清夏

卒業生からの寄稿 9

好きなことは求め続けて…………… 落合裕子

「私の転職報告」…………… 平田(旧姓:笛木)祐子

Aye(アーイ)の一言
“Awright Mucker hows it gawn?” …… 松本彩子

こんな本を出しました 12

浜田寿美男・落合豊行・清水新二

教育・学生支援室等の設置 13

井上裕正

新任教員紹介 14

数理を通して存在を考える

高須 夫悟

理学部 助教授
情報科学科 自然情報学講座



FUGO
TAKASU

私の専門分野は数理生物学である。「数理生物」という言葉を初めて耳にする方は大抵の場合、数理と生物がどのように結びつくのか具体的なイメージがつかめず、「どんな研究ですか?」と疑問に思われるようだ。一言で言えば、生物個体間の関係

(資源を巡る競争、捕食など)や出生死亡過程を数式あるいはアルゴリズムとして記述した数理モデルを構築し、モデルを数理的に解析することで、多様な生物現象をより深く理解することを目指す研究分野である。私は特に生物集団の構造並びに進化に注目した研究を行っている。



自然史博物館でのセミナー

進化と言った化石資料や分子データに基づく実証型の研究を思い浮かべる方が多いかもしれないが、私が取り組む進化はもう少し抽象的である。現代生物進化論の根底にある概念に「適応度の最大化」がある。適応度とは、生物個体がどれだけ多くの子孫を残すことができるかの指標であり、適応度の最大化とは、より多くの子孫を残す個体(の系列)は集団の主流を占めるに至る、つまり、高い適応度を持つ個体が選択される、というダーウィン自然選

択の別表現にほかならない。

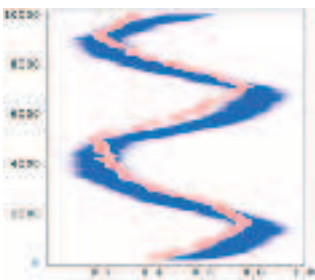
進化は数百万年という時間スケールで起こるだけではない。イギリス産業革命の時代、明るい体色を持つある種のガが、工場から排出されるススが木の幹に付着して鳥類等の捕食者に目立ちやすくなった結果、体色が煤けた幹に同化するようになり黒色化した例や、早魃に伴う植物の種子サイズの変動により、餌としての種子を利用しやすい形態に嘴が変化したガラパゴスフィンチ類の例は、進化が短い時間スケールで起こりうることを示す例である。今我々が目にするさまざまな生物の有り様は「適応度最大化」の結果であると論じることは易しい。しかし、適応度最大化がもたらす具体的な結末は自明ではない。適応度の最大化という単純な原則から導き出される多様な結末の一端を、寄生関係を例にとって紹介しよう。

寄生者は、寄生される側(宿主)の適応度の犠牲の上に存続している。故に、宿主側には寄生を排除・回避する方向への選択圧が働く。逆に、寄生者は寄生が成功しなければ子孫を残せない。それ故、寄生者の側には寄生を効率良く成功させる方向への選択圧が働く。両者の利害が互いに相いれない寄生関係では、軍拡競争型の共進化がおこると予想される。冷戦時代の米ソのように、互いに相手よりも強大であるべく際限の無い軍拡がエスカレートす

るといった構図である。

寄生関係の二つに鳥類の育児寄生(托卵)がある。托卵では、寄生者は宿主の巣に卵を生み込み、宿主に子育てをさせるが、多くの場合で宿主のヒナは寄生者ヒナとの競争に負けて死んでしまう。そのため、宿主は何らかの手段を進化させて托卵を排除する一方、寄生者は托卵を成功させるような手段を進化させると予想される。事実、寄生者の卵を認識して排除する宿主が存在すること、宿主に見破られないように宿主卵によく似た卵を生む寄生者が存在すること、が野外研究によって確認されている。宿主が卵認識排除能力を進化させると、寄生者は卵擬態で対抗する、という軍拡競争である。では、寄生者の卵擬態に宿主はどのように対抗するのか?これについては野外調査による実証型研究が現在進行中であるが、宿主が寄生者に卵擬態されないように卵模様を変える可能性が数理モデル解析により指摘されている(後述)。

托卵以外の身近な例では、寄生者としての病原体(バクテリア、



寄生者と宿主の共進化モデル



王宮内の公園にて



ブダペシュト鎖橋の夜景

ウイルス等」と宿主としての人間の関係がある。人間は、麻疹や風疹などについては一度感染すると終生免疫を持つ。免疫系は生物が長い進化の過程で獲得してきた仕組みの二つである。免疫を持たない病原体の感染に対して人類は抗生物質などの薬物を開発・投与することで病原体を押しさえ込んできた。しかし抗生物質を濫用しがちな昨今、抗生物質耐性をもつ病原体が出現し、医療の現場で深刻な問題になっていることは皆さんもよくご存知だと思ふ。病原体の立場に立てば、抗生物質耐性を持つ個体はそつでない個体よりも適応度が高い。従つて、人類が病原体を抑制すべく抗生物質を使用する限り、これを出し抜く薬物耐性が病原体で進化するのは、少なくとも理論の上では当然の帰結である。耐性菌の出現に対し我々は新た

な抗生物質の開発にいそむしかない。まさに病原体と人類の軍拡競争である。こつした軍拡競争は一般に長い目で見てどのような結末に向かうのだろうか？ また、我々が現在目にする寄生関係の数々はこのような進化的段階にあるのだろうか？こつした疑問に答えるためには、データに基づく実証型の研究を進める必要がある。と同時に、幾つかのシナリオを設定して数理モデルを組み立てて解析し、各シナリオがどのような結末を迎えるのかを実証型の研究に提示することで、我々は両者の関係をより深く理解することができると考へる。数理生物学が目指す役割はここにある。

鳥類育児寄生の軍拡競争に関しては、数理モデル解析は二つの可能性を提示している。すなわち、(一)集団中に卵模様に

関する多型が現れ、両者は安定した状態に収束する。もしくは、(二)寄生者が卵擬態を進化させる一方、宿主は卵擬態されないように卵模様を進化させる関係が繰り返される、という結果である。こつした結末は、言葉だけの議論ではなかなか導き出すことが難しい。曖昧性を廃した数理モデル解析によつて初めて明らかになる結果である。現在、野外研究者と協力してデータに基づくモデル解析の検証を進めているところである。

適応度最大化という単純明快な原則に従つとしても、その結末は自明でない。各個体が自らの適応度を最大化すべく振る舞つたとき、系全体としてどのような振る舞いが出現するのは、数理生物学を含む進化生物学一般の大きな問題である。数理生物学が取り扱うテーマはややもすると抽象的な議論になりがちだが、対象がどのような存在であつたとしても、両者の関係は上に述べた寄生関係とさほど変わらないのではないかと密かに考へている。

執筆者多忙のため本原稿は外国出張先の仕事の合間を縫つて執筆した。静かで落ち着いた環境だと筆も軽やかに進む。こつした環境を用意していただいたハンガリー側研究者に感謝する。

ブダペシュトはドナウ川に近いハンガリー科学アカデミーのゲストハウスにて2004年10月21日記す。

恐山小景

水垣 源太郎

文学部 助教授
国際社会文化学科 社会情報学講座



GENTARO
MIZUGAKI

ちょうど10年前の夏、青森県下北半島の霊峰、恐山を訪ねたことがあります。こゝは二年のある時期、「イタコ」と呼ばれるシャーマン（霊媒師）が「口寄せ」を行っていることで有名なのですが、その儀礼をみようと思ったのでした。

ふもとの魚屋の店先で、小さくて売り物にならないホタテをタダでおなかいっぱい食べさせてもらった後、バスに乗りこみました。7月の大祭が終わった後なので、乗客はそれほど多くありません。目を浴びてきらきらと光る緑に涼しい風、バスの窓からは夏山のさわやかさを存分に味わうことができます。でもそれも途中までのこと。火口部に入ると、あたりは異界の情景に二変します。一帯には強い硫黄臭がたちこめ、紫やオレンジに変色した岩場のおちこちに、無数の風車がはためいていています。エメラルド色に深く澄み切った火口湖と真っ白な砂、遠景の山の緑のコントラストはまばゆいばかりです。

バスから降りると、乗客は恐山菩提寺のお堂に向かいました。そしてお寺のお

堂を目前にしたところで、お堂には向かわずに、右手にある売店でなにやらお菓子を買った、左手の、ちょうどお祭りの露店のようにテントが立ち並んだ角に急いでいきました。そこがイタコの口寄せの行われる場所でした。

その二つをのぞくと、10代とみえる若者がイタコのおばあさんの正面に座っていました。おばあさんの前には先ほど買った袋菓子をお供えしてあり、横にはラジカセが録音状態にしておいてありました。

おばあさんは彼に呼び出して欲しい人のことをいくつか聞いた後、「シヤカシヤカ…」と数珠をすり合わせ、独特のリズムを刻みながら、口寄せを始めます。「死者」はイタコの口を通して、来訪を感謝し、早世を後悔し、遺族に苦勞をかけたことを詫び、依頼者に後々の世話を頼み、将来の災難に注意を促し、最後に喜びの言葉を残して去っていきます。ふと若者の方を見ると、彼は一人ではありませんでした。いつのまにか傍らには同じ年格好の少女が座っており、並んで肩をふるわせていました。

こゝへ誰に会いに来たのか——胸の詰まる思いがしました。

イタコがこの恐山で口寄せをするようになったのは大正時代になってからだそうです。もともとイタコたちは各地の農村に居住し、死者をいたむ人々の宗教的需要に応じることで生計を立てていました。彼女たちの多くは極度の貧困のうちに、目に障害を負って生まれています。そして同じイタコの師匠のもとへ弟子入りさせられ、つらい修行を経て、イタコとしての営業を許されるようになります。そういう意味では、シャーマニズムというのは障害を負った人々が（ぎりぎりではあれ）自活していくことを可能にしていた文化システムだったかもしれない。イタコの数は減少の一途をたどっているのですが、それは社会が豊かになったことの証左でしょう。では、イタコが応じてきた宗教的需要を今後たれが満たすのでしょうか。新々宗教チームをとく力ギはその辺りにありそうです。

たまごろがし競走のあとに

坂口 修一

理学部 助教授
生物科学科 分子細胞生物学講座



SHUICHI
SAKAGUCHI

先日、子供の保育園の運動会が早く終わったので、家族で奈良公園に繰り出した。高畑町の蕎麦屋で昼飯を食べ、鹿と戯れた後、奈良国立博物館に入った。そこで「仏教美術の名品」と銘打つ平常展示を見た。奈良女子大学に赴任して、はや十四年になる。けれども、奈良国立博物館へは一度、「正倉院展」を見に行ったきりで、平常展示はこれまで見たことがなかった。以前から、「せつかく近くにいるのだから、見てみよう」と思いつつ、ついつい億劫で先延ばしにしてきた。

一般に文化財とか観光名所とか、近所にあるとかえて見に行かなくなるものだ。「灯台下暗し(とうだいもとくらくらし)」というところもあるつつが、「いつでもいけるところには、なかなかいかない」という逆説的な定理があるのだと思う。この逆説は文化財の観覧に限らない。家が学校のそばにある学生に限って遅刻が多いという事実(？)とも相通する。あるいは、白昼、衆人環視の中で人が殺されたが、回りの人々は誰も助けようとしなかったという話。「誰か助けるだろう」と皆が思っていたのだという。「いつでも…できる」とか、「誰かが…する」とか、大きな自由度は、人間の決断を鈍らせ、物事の表現を阻む側面をもつ。

ともあれ、「仏教美術の名品」を見た。

ガンダーラなど海外出土の彫刻から飛鳥、奈良、平安、鎌倉にいたる国内各時代の仏像が、解説付きで豊富に展示されていた。仏像の変遷を理解するには、うってつけといえる。それに閻魔さんを集めた閻魔さんコーナーのようなところもあり、子供も(少しは)楽しめる。油断すると仏像によじ登ろうとする子供に目を光らせながらではあるが、明るい光のもとで間近に仏像を鑑賞できるのはなによりだ。この点、お寺で拝観する仏像は、堂内が薄暗いつえに奥まったところに安置されているので、仏像の理解云々以前に、よく見えないうことが多い。だから博物館の展示はわかりやすい。

一方で、博物館の仏像は、標本箱の昆虫標本に似ている。箱の中の虫は、整然とならんで、じっくり観察できる。でも、体がいくらきれいに輝いていたとしても、死んだ虫は死んだ虫。自然の中で動き回っている虫とは違う。仏像の機能は人間に信仰されることであり、それが仏像の「生きている」ということだとすれば、信仰の現場であるお堂から切り離され、博物館に並べられた仏像は、いわば仏像の標本。美術品として見る人を魅了するとしても、仏像本来の役目は果たしていない。

仏像に限らず、文化財あるいは文化というものは、生きた人間の営みの中での

み生命を保つものだと思う。学問の伝統も文化の二形態だ。最近、テレビなどで、大学発ベンチャーなどが、産業界からみた大学が強調されることが多い。産業と結び付きの弱い学問分野は肩身が狭くなってきたような気がする。そのうち、研究に携わる人間がいなくなる学問分野もでてくるかもしれない。その学問分野が必要になつたとき、いくら書物が残っていてもそれは虫の標本と同じ。標本から虫の動きを再現することが困難なように、書物だけから学問の知恵を引き出すのは容易なことではなからう。人類の未来のために、野生生物の保護だけでなく多様な学問文化を保護する努力が必要なのではないかと思つた。



フレンチ パラドックスと 医食同源

井上 裕康

生活環境学部 教授
生活環境学科 食物科学講座



HIROYASU
INOUE

「フランス人は喫煙率が高く、バターや肉など動物性脂肪をたくさん摂取するのにも、心臓病などの心疾患による死亡率が低い」ことが知られていて、このことは一般に「フレンチ パラドックス」と呼ばれています。その理由のひとつはフランス人が赤ワインをよく飲むこと、そして赤ワインに含まれる抗菌性ポリフェノールの抗酸化作用に起因していると考えられています。我々は最近、この物質の新しい作用機構として、核内受容体PPARに特異的に結合する分子（リガンド）として働くことを分子生物学的な手法で明らかにしました。

PPARはビタミンAやDの受容体と同じファミリーに属するリガンド依存性核内受容体です。たとえば活性型ビタミンDはビタミンD受容体にリガンドとして結合し、その受容体が様々な遺伝子の発現を調節することでビタミンDの作用を発揮します。一方、PPARはその遺伝子構造から核内受容体であることはわかっていたのですが、そのリガンドは不明で孤

児受容体と呼ばれていました。ところが最近になって生活習慣病に対する薬剤がこのPPARのリガンドとして働くことが見いだされました。具体的にいうとPPARには α 、 γ 、 δ の3種類のタイプがありますが、高脂血症治療薬は α のリガンドとして、インスリン抵抗性糖尿病の治療薬は γ のリガンドとして働くことがわかってきました。このようにPPARに対するリガンド探しは生活習慣病に対する薬剤の開発につながるため、現在、世界的な注目を集めています。そのような状況の中で我々は赤ワインに含まれるポリフェノールがPPARのリガンドとして働くことを見いだしました。この分子は、ピーナッツや日本の生薬「虎杖根（イタドリ）の根茎を乾燥させたもの」にも含まれており、我々の発見は「医食同源」にもつながると考えられています。しかし科学的な分子作用機構については不明な部分が多いため、私は奈良女子大学でこの研究をさらに深めたいと思っています。その展望について以下に記します。

カロリー制限が寿命を延ばすことは以前より実験的にわかっており、カロリー制限を模倣する薬剤は「長寿の薬」として働くことが期待されています。そのような中で、我々がPPARリガンドとして見いだした赤ワインに含まれるポリフェノールがカロリー制限模倣物質として最近報告されました。一方で脂肪酸誘導体であるオレイルエタノールアミドがPPARを活性化することで「やせ薬」として働くことも報告されました。それでこれらの報告と我々の見いだした知見がどのような関係にあるか大きな興味を持っています。最後にひとこと、私は本年よりこちらに赴任しました。奈良女子大は緑も多く、私の好きな昆虫（ギンヤンマなど）がいるのでうれしいのですが、教育と研究という大学としての生活環境を良くしていく必要を感じます。最近京都大学の時計台にあるフレンチレストランに行きました。きれいで値段もリーズナブルでおいしく、私の学生時代では考えられなかったことですが、うらやましく思いました。

シユタイナー学校教師 養成コース受講

福本 洋 大学院人間文化研究科 博士後期課程
 社会生活環境学専攻 二回生

HIRO
 FUKUMOTO

去年九月から、私はカナダのトロントにあるルドルフ・シユタイナー・センターで、一年間集中の教師養成コースを受講する機会を得た。

シユタイナー教育を二九八〇年代後半に知ったとき、この教師と授業に魅かれた。その当時英語を教えていて、教科を通して何を教えるのだろうか、もちろん英語そのものは当然のことであるがそれだけではないと感じていた。

このコースを受講したのは、二〇歳台から五〇歳台までの男女、定員いっぱいの一十二名。センターは、シユタイナー学校の校舎とつながっていて、施設も共有されている。またそこでは大人のための学びのコースも数々行われていたり、シユタイナー教育の北アメリカ東部地域の拠点でもあるため、年に大きな学会が二〜三回、講演会や、



Stoolを作る授業は、林へ木を切りいいくところから始まる

教師のための学びの会がたびたび開かれる。そのため保育園児から高校生はもちろん、さまざまな背景をもった人たちに会え、学べるところであった。

授業は、たいて

い朝九時から四時まで、二日中ぎっしりと詰まっていた。しかしうまく組まれていて、午前中は講義を中心にしたメイン授業、午後は音楽、手仕事、スピーチ、教科別など実習を伴うものを中心に。また授業観察や教育実習は二〜三週間のものが四回、授業として三〜五年生に日本語を教える機会にも恵まれ、うれしかった。

数字の時間に、L1の×の表記で、ある一人の人の言葉で、ひとつのことに気づいた。それは、あたりまえのことだったのだが、ここでシユタイナーの考えを理解するのに、日本語と英語とシユタイナーの三つの世界の違いから理解していかないといけないということだ。授業が終わってから、ディレクターのダイアナと三十分ほどかけてその意味を納得するまで話し合った。やはり、シユタイナーの考えは独特であり、彼の理念にかなっている。というように理解するのにとても時間がかった。また、意見を述べたり、質問したりするために、積極的にかわる努力をしないと弾き飛ばされそう感じた。

ばされそう感じた。



ディレクターのダイアナと7年生担任のプライアンと 卒業式の日に

「コース初期に三週間、〇歳から七歳までの子どもを中心に学んだ。その中で、自分自身の〇歳から七歳までを追体験し、その意味を考えていく。「自分とは何なのか、なぜここにこのように生まれてきたのか」と。この問いは二年間を通して私に迫るとき、そして今もそうだが、これがまさにシユタイナー教育の根底にあるものだと思感じた。もちろん、子どもたちはそれを頭で考えるのではない。日々の授業の中で体験しながら、主体的な自分になっていくことが期待される。そして教師が我慢強くそれを支えている。

シユタイナーは、目覚めと眠り、外と内、動と静など、対立ではなく、両極の中をリスミカルに動きながら主体的で「魂の自由」な人間を語る。私たち十一人は、文化や考え方の違いに戸惑い対立しながらもお互いに理解を深めていった。そして、五年後に会う約束をし、卒業した。私が「私」になるために、学び、援助していきたいと思っている。

「好きない」と

西村 亜希子

理学部 数学科
四回生AKIKO
NISHIMURA

私は教えることが好きだ。そして、子どもが好きだ。子どもの笑顔を見ると嬉しくなってくる。

私は以前からずっとやりたいと思っていた「学習チューター」を、今年の七月から始めた。ここでいう「学習チューター」とは、小・中学校に学習支援サポーターとして勉強を教えに行くことだ。教師を目指している私にとって、これは絶好の機会となった。

六月終わりに行き先が決定し、治道小学校と郡山中学校に行くことになった。治道小学校は全校生徒が二六〇人という小規模の学校で、全学年通して仲が良いという印象を受けた。一方、郡山中学校は「学年七クラス」という大規模な学校で、部活動に熱心で挨拶をしつかりするという印象を持った。どちらも週二回行くことになった。

勉強を教えに行くといっても、小学校と中学校とでは大きく活動内容が変わってくる。小学校では、水泳の監視をしたり、休み時間を一緒に過ごしたり、夏休みには宿題のサポートをした。トマトルームという部屋が割り当てられ、休み時間になると児童が集まってくる。折り紙をしたり、絵を描いたり、本を読んだり、粘土で遊んだり…。あっとい間に部屋かにぎやかになる。似顔絵を描いてくれたり、折り

紙で風船を作ったりプレゼントしてくれる子もいた。男の子は手裏剣を作ったり、紙飛行機を飛ばして遊ぶ子が多かった。こうして「先生来て〜。」と呼ぶ声が出たかと思つと、また別のところで「先生〜。」と呼ぶ声。狭い部屋をあつちへ行ったりこちへ行ったり。学校から帰る頃はいつもへとへとだった。しかし、これが小学生というもの。とにかく元気で明るい。そして一人ひとり本当にかわいい。

中学校では、放課後に自主的に勉強したい生徒が集まり、私は数学を教えた。個別に指導し、その生徒にあった問題を解いていった。「数学は嫌い〜。」という生徒にいかにもやる気を持たせるのが難しかった。また、集中力がすぐに途切れてしまうので、問題がなかなか進まない。何とかきっかけを作つて、生徒の数学嫌いをなくしたいという思いで取り組んだ。しかし、このことは容易ではなく、これからの私の課題となった。自分が分かることと相手に教えることは全く異なり、分かり易く教えることの難しさを実感した。中学生は小学生とは違って、初めは恥ずかしそうにしていて口数も少なかったが、回を重ねるごとに勉強以外の話もするようになった。ほとんどの生徒が部活動等のため、集まった生徒はわずかだったが、放課後に学校の先生以外の人に勉強をみてもらうのは新鮮だったと思うし、私自

身とてもいい経験になった。

今回の「学習チューター」を通して児童・生徒との関わり以外に、学校の先生と話す機会もたくさんあった。実際の学校現場を見れたことは貴重な体験だった。教育実習とも違い、塾講師や家庭教師とも違う経験ができ、とても有意義だった。今回のような取り組みが、私の小・中学校時代にもあれば楽しかっただろうと思う。

好きやってみてみたいから始まった「学習チューター」。大学生活も残すところ約半年。大学生だからこそできること、やりたいことをこれからも思い切りやりたいと思う。

Challenge

一つの野望に時間を捧げる、 それは一生ものの宝の探求

SAYAKA
TSURUDA

鶴田 清夏

生活環境学部 生活環境学科
アパレル科学専攻 三回生

You can do it, if you try!

これは奈良女子大学EJSSのエルドです。私はEJSSに入部して、スピーチセクションで二年間活動してきました。奈良女子大学EJSSはKIEFと三つ関西の十大学から成る連盟に加盟しており、奈良女EJSS部員は自動的にKIEFにも所属することになります。私はKIEFのスピーチの活動を運営するスピーチコミッティのチーフを去年の十月から年間、勤めさせていただきました。

先代のチーフから引継ぎのお話をいただいた当時、私はどちらかと言うとEJSSの活動に活発に携わっている方ではありませんでした。正直、チーフの話は「なんで私が?」とかなりびびりました。ですが目立ちたがりの私は、チーフという人前に立つことが多い大きな仕事を引き受けることにしました。やるからには中途半端に終わらせたくなかったので、この一年は「KIEFに捧げる二年」と決めました。

スピーチコミッティにとって一番大きな仕事は、春と秋に開催される英語弁論大会です。毎年恒例のこの大会は、KIEF加盟大学のスピーチカー達がスピーチを披露する場となりました。しかし、ここ数年スピーチの活動をする部員が減ると同時に、関西のEJSS全体でもスピーチ

のレベルの低下が懸念されていました。そこで、どうにか関西でスピーチという活動を活性化させたいと、このKIEFスピーチコミッティチーフという立場を利用して働きかけようと決心しました。春に行う弁論大会にKIEF加盟大学以外の参加を認めることにしたり、有名な審査員をお呼びしたり、大会費を稼ぐために、大企業から近所のお店までを視野に入れ、スポンサーになってくれるよう交渉したり、サブチーフとコミッティ員たちみんなが一丸となって働き、今までにない大規模な大会を企画・実現しました。



できたことは、私の自信になり、「関西のスピーチを盛り上げるぞー」という熱意も更に強くなりました。

今年、多くの新入部員がスピーチセクションを選んで、活動し始めている姿を見ると、関西のスピーチ活性化に少しでも貢献できたのではないかと思うことができました。

今年でEJSSも引退です。スピーチコミッティのチーフになったことで人を信頼すること、人から信頼されることの大切さ、また難しさを学びました。他人に腹を立てたことがなかった私が、意見をぶつけ合い、本気で喧嘩できる仲間ができました。周りの人に気を配ることが

苦手だった私が、先輩や後輩、仲間達に配慮を示して行動できるようになりました。KIEFに捧げた二年、KIEFからもらったものは、なんとなく過ぎてしまっただ学生活年分よりはるかに大きなものだったと確信しています。

しかしこうやって大会運営に携わって、スピーチ自体の活動、つまり自ら大会に出ることをなぞりにしたくなかったので、色んな人の助けを得てスピーチを完成させ、大会に出場しました。そこで優勝

好きなことは求め続けて

落合 裕子

文学部 国際社会文化学科 2001年度卒業
アジア航測株 西日本システム開発部YUKO
OCHIAI

「地図の会社に勤めてるらしいね…。好きなことができてよかったね」昔の私を知る人に言えば必ずこう言われます。誰が言い始めたのか「地図の会社」で私は働いていることになりました。と言うのも、私は非常に地図が好きで、小学生の頃には「地形図を作製する人になりたい…」と思っていたのです。

現在の仕事は、官公庁向けに公共施設を維持管理するGIS(地理情報システム)を構築することです。私が実際に地図を作っているわけではありませんが、他部署で作成した地図を片手に、公共施設の工事設計図面を開き、システムに乗せるデータの構築などを行っています。土木工書を見、プログラミングの勉強をおこなう傍ら、やはりシステムを作る上で地図を見ない日はありません。なんとなく描いていた夢「地図(GIS)と関わる仕事をしたい」ということが現実のものとなり、日々の生活を非常に幸せに感じています。

私は「地図と関わる仕事」に向けて順調に歩んだわけではありませんでした。高校卒業時、「趣味と仕事は別だ」と思い込み、地図と関係のある地理学を学びたかったにもかかわらず、全く関係の無いA大学に進学してしまいました。A大学では地図というものが周りの人からは全く理解されず、悶々と日々を過ごすことに

なってしまうました。ただその状況におかれたことで「地図と関わる仕事をしたい」という思いをより強く持つことができたのです。そんなとき、GISに関する特集記事を新聞で見て「これだ。現状に甘んじていないで好きなことをしよう」と、少しでも自分の興味のあるほうへ進むべく、悶々とした現状を打破し積極的に行動することを心に決めました。

B大学の地理学のゼミに参加し、地理学の学べる奈良女に編入学し、あるとき学会に参加しました。そこで現在勤める会社に出会いました。この間、好きな勉強ができ、地図に関する話ができる人が周りにいる幸せを改めて感じていたことを思い出します。

学会への参加を含め、自分の行動にためらったことはありませんが、「～したい」とか「～が好きだ」という思いを持ち続けることで「やってみよう」「行ってみよう」となり、今の会社にめぐり会うことができたのです。

私の心を動かしてくれたあの新聞記事は、今でも手元にあります。「好きなこと、やろうと思ったことはためらうことなく素直に、積極的にやる」という初心を思い出させてくれるこの記事は未だに大切にしています。

私の人生を振り返ると、「趣味と仕事は別」などということはなっていないと思います。

趣味(好きなこと)の一部が仕事に活かせることができれば素晴らしいと思います。好きなことは、多少の困難があっても続けることができ、努力もできると思っています。そして何より、「好きなことを求めている生活は輝いていて楽しい」と思っています。就職活動などで後輩から相談を受ければ私は必ず「好きなことは、小さくて気づいていないかもしれないけど、自分に正直に、好きなことをしたほうがいいよ。最終的に人は、興味のあるもの(好きなこと)へ惹かれるだろうから」と言います。ためらうことなく、好きなことを求めつけチャンスがあれば積極的にそのチャンスをつかんでください。きっと充実した、楽しい、輝いた日々が送れると思います。

「私の転職報告」

YUKO
HIRATA (FUEKI)

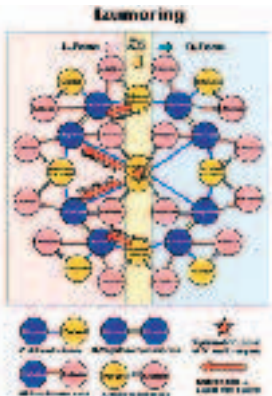
平田(旧姓/笹木)祐子

大学院人間文化研究科 博士後期課程
複合領域科学専攻 2001年度修了
財団法人かがわ産業支援財団

香川に来て気がつけば、一年半が過ぎようとしています。今回このような原稿依頼を受け、まだまだ修行中の身分ですがお世話になった先生方に今の状況を報告できる良い機会だと思い引き受けました。また、在校生の方には世の中「勝ち組」ばかりでないなあと思っただければ幸いです。

大学院終了後、一年間研究生として過ごし、香川に移りました。と同時に財団法人かがわ産業支援財団に所属し、香川医科大学(当時、現在香川大学医学部)に派遣され現在に至ります。私はここでは希少糖プロジェクトの一員として研究をしています。

香川と言えば讃岐うどんが有名ですが、和三盆と呼ばれる砂糖も知られています。その香川で希少糖と呼ばれる自然界にわずかにしか存在しない単糖を研究している研究者がいます。香川大学農学部の高森(いずも)健教授は1997年に約50種類もある希少糖すべての生産戦略を確立しました。



希少糖は自然界に存在量がない単糖であり、Luzmorringは全希少糖の生産戦略である

1998年頃から香川医科大学の徳田雅明教授を中心とした希少糖の持つ生理活性を探索する研究が開始され、希少糖にはさまざまな生理活性があり、医学的に応用できることが明らかにされました。2002年度に文部科学省から知的クラスター創成事業の認定を受け、産学官共同研究が始まりました。(エフは <http://www.kms.ac.jp/~kishoto/index.html> でお)

私が参加した時点では、知的クラスターの二年目で規模の大きい研究をする環境が整ってきたところでした。そこで私が担当することになったのは、希少糖の生理活性をプロテオーム手法で調べることです。例えば、正常な細胞とがん細胞はどこかに違いがあるからがん細胞になるのです。その「違い」の部分を探るにはさまざまな方法がありますが、その二つに質量分析装置を用いてタンパク質の発現の違いで調べる方法があり、私はその研究をしています。

物理学科出身で理論物理学をしていた私にとって、実験は学部の時以来でした。簡単な実験道具の使い方も知らず、試薬の保管場所もわからない状態で始まりました。理系であるが、実験初心者なので失敗はしています。また、生化学の基礎知識はほとんど高校生レベルなので論文を読

むために教科書を一冊読まないといけないときもあります。そんな状況でも、研究を任せられ、次々と新しいことに挑戦できることは悪いことではないと思います。今年度は学会にも参加をして、さらに勉強をする必要を感じました。

物理学の学位をとって分野変更をした私は「負け組」に入ります。でも、「やる気があるよ」だからと採用されたのは運が良かったと思います。学位を持っていることで、「研究の基礎がある」と評価されたのでしよう。その評価に比べようと日々地道に研究しています。「負け組」でまわり道していても、努力していればきちんと評価されるのだなと思います。女子大で学んだ結果が今の職なら、今の職場での評価は次の転職の時に出ると思っています。そんな感じで香川で楽しくがんばっています。そのせいか、友人に「仕事の話をしているときは生き生きしている」と言われたことがあります。月並みですが、「勝ち組」「負け組」と言ってもその人次第なのかなと思いました。

Aye (アーイ) の二言 "Awright Mucker hows it gawn?"

AYAKO
MATSUMOTO

松本 彩子

大学院人間文化研究科 博士前期課程
人間環境学専攻 2002年修了

この英語のフレーズは、私の暮らしているグラスゴーで話されています。UKの北部、スコットランドの中でも、グラスゴー弁のアクセントはとても強く、単語やフレーズ自体が違うこともあります。

このフレーズの意味は、Good day to you Sir, how are you? です。グラスゴーに住んでいてEnglish Learnersに必要なのは、英語のテスト用のBBC英語と、生活に必要なグラスゴー英語なのですが、英語のクラスでは前者しか習えません。後者を学ぶには、生活の中から自分で掴み取るしかないので。私が普通の英語で話しかけてもグラスゴー出身の人は理解してくれませんので、グラスゴー弁を話す必要性は生活上ないので、暮らし始めて1年経った頃、私は普通の英語だけでは物足りなくなってきました。グラスゴーは人懐っこい土地柄で有名です。例えば、信号待ちしていても「今日の予定は？」と質問してくられたり、暗い顔で歩いてると「元気だせー」と言われたりします。これらのやりとりはグラスゴー弁でなされるので、返事をpweeの「Yes!

と答えるところを「Aye(アーイ)」と答えるのは、とても簡単でよく使われ、グラスゴー弁初心者の方はそれから試みることにしました。

「アーイ」と返事をするイメージトレーニングをしてみたり、一人で歩いているときに何回も「アーイ」とぶつぶつ繰り返してみたり。その結果、ある日グラスゴー出身の人と雑談をしていたとき、突然私の口から自然と「アーイ」が出ました。すると、彼女の会話が瞬止まって嬉しそうに、「アーイって言った!」と喜んでくれました。それ以降「アーイ」を使うのにためらいがなくなり、むしろ「アーイ」と返事をする、みんなと会話が断然弾むようになりました。たった一言その土地の言葉を話すだけで、周りの人々に受け入れられた気分になれ、自信がつき、グラスゴーに住むことが心地よく思えるようになってきたのです。

そうすると、グラスゴーへの愛着も生まれてきました。ホリデーからの帰りのことです。飛行機のキャビンクルーがここのグラスゴー弁で、グラスゴー人の乗客と冗談を言い合っています。それを聞いたときに、「ああ、ようやくグラスゴーに帰ってきた。」と心の底から思ったのです。それが、毎日ピーカン晴れの国から帰って来た時でも、雲の垂れ込むグラスゴーの空港でグラスゴー弁を聞

くと、妙に温かくほっとした気分になれるのです。グラスゴー出身の人にそのことを話すと、「僕も同じように思う。こんなに天気が悪くて、街も綺麗じゃないんだけど、グラスゴーには何かマジックがあるんだよ。」と語っていました。かたや、グラスゴーアクセントを嫌う私のパートナーは、私がグラスゴー弁になるのを恐れて、「早くグラスゴーを脱出してください。」と焦っているのですが。



こんな本を出しました

「取調室の心理学」

浜田 寿美男

文学部
人間行動科学科
教授
人間関係行動学講座



SUMIO
HAMADA



文学部で立ち上げた「子ども学」プロジェクトを担うべく本学に昨年4月に異動してきたのだが、実は本職の発達心理学のほかに、もう25年以上前から冤罪にかかわる自由や目撃の問題に法心理学的な視点から取り組んできた。今回の本は、この後者の領域の仕事である。社会の表には出ないが、私たちの身の回りには、無実の人が刑事裁判に巻き込まれる例が頻々と起こっている。そして従来の法的発想では片付かない複雑な事件が私のような心理学研究者に回ってくることもある。たとえば無実の人間が嘘で自白するようなことがあるのか。あるとすればどのような心理メカニズムによってなのか。本書はそうしたかたちで弁護士から鑑定の委嘱を受けた事件を中心に、取調室で何が起きているのかを書いたもの。具体的な事件のなかで起こる取調べの謎は、下手な推理小説よりずっと面白い。こういう分野の仕事もあるのかと関心をもたれた方は是非研究室までおいでください。

(「取調室の心理学」浜田寿美男著、平凡社新書、2004年、700円+税)

「平面的グラフの立体化」

落合 豊行

理学部
情報科学科
教授
数理情報学講座



MITSUYUKI
OCHIAI



14人の人が集まるとそのうちの3人は互いに知り合いであるか5人は互いに知り合いでない。13人の集まりではこのことは一般には成り立たない。このような有限集合の要素間のディスクリートな関係に関する学問がグラフ理論である。グラフ理論では多くの証明に背理法を用いることが多い。学ぶ学生諸君にはこの証明法は評判が良くない。そのこともあり執筆に当たって出来るだけ構成的な証明法を採用した。内容については、ウェブリンクグラフのページランク、平面グラフの描画法、平面的グラフの判定、立体化アルゴリズム等これまでの書物で扱われていないことを中心に解説した。ページランクについてはグーグル発展の元になった概念で、これにより売れないアメリカ人数学者は5兆円の株価時価総額の会社の創業者となった。本の最終章は3連結平面的グラフの立体化アルゴリズムに関するシュタインニッツ定理を具体的に解説したもので大学院学生との共同研究により分解アルゴリズムをプログラムすることに成功しており、現在もその高速化に関する研究を継続している。後半部分の説明は複雑で冗長であるので読者は退屈すると懸念し、ネットワーク上でそれらに対応したプログラムを公開している。実は出版時に本と連動したeラーニングを構想したのであるが未だ実現していない。

(「グラフ理論入門—平面グラフへの応用」落合豊行著、日本評論社、2700円、2004年)

こんな本を出しました

教育・学生支援統括室等の設置

副学長（教育・学生支援担当） 井上 裕正

国立大学法人化に伴い、教員と事務職員が連携した柔軟で機動的な組織を構築し、入試・教育・学生支援各業務の企画・立案・実施機能の強化を図るために、教育・学生支援統括室とその下の5つの「室」が設置されました。5つの「室」とは、入試企画室、教育計画室、学生生活支援室、就職支援室、障害学生支援室です。

入試企画室は、入学者選抜の企画・立案・実施、入学者選抜方法の調査・研究、入試広報などを行い、学部・大学院前期課程・大学院後期課程・入試広報の4専門部会が置かれています。

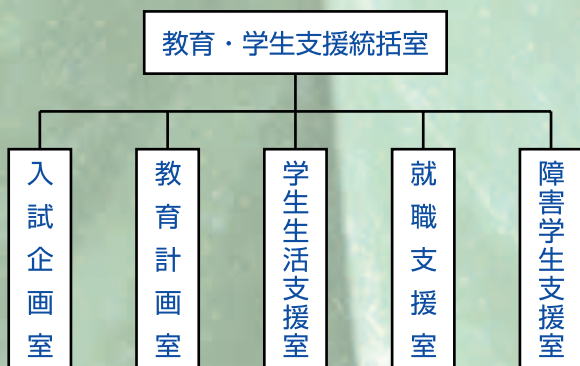
教育計画室は、教育の基本方針の策定、教育目標・計画の企画・立案・実施、教育の実施体制の構築などを行い、教育推進・キャリア教育・FD・IT教育の4部会が置かれています。

学生生活支援室は、学生生活支援の基本方針の策定、学生生活支援の企画・立案・実施などを行います。

就職支援室は、就職支援の基本方針の策定、就職支援の企画・立案・実施などを行います。

障害学生支援室は、障害学生支援の基本方針の策定、障害学生支援の企画・立案・実施などを行います。

そして、それら5室全体を統括し、連絡・調整するのが、教育・学生支援統括室で、いずれの室も室長、副室長、室長補佐、室員で組織されています。このような効率的かつ機動的な新しい組織体制のもとで、本学は入試・教育・学生支援のいっそうの充実に努めています。



残念ながらほとんど読まれない本を書きました。『アルコール関連問題の社会病理学的研究』（ミネルヴァ書房、2003年）という、題名も中身も堅い本です。本を出す以上、一人でも多くの方に読まれることを希うのは当然です。それでも時に、読まれないのを予期しながらも書かねばならないことがあります。この手の本は即、国会図書館行きで、いつかこの世の一人でも表紙を開いてくれるのを静かに待つこととなります。

しかし一人でも多くの方に読んでもらえる希い断ちがたく、反動的にまったく一般的な、東海林さだおさんのイラスト表紙のやわらかい本を新潮OH文庫から出しました。『酒飲みの社会学』です。飲酒を通じて日本の人間関係や社会の仕組み、偏見の重構造からアルコール・ハラスメントまでが、お手軽にわかってもらえる本です。ケーキセット1回分の値段ですから、是非甘いものを控えて、しばし甘党から左党の世界にトリップしてみてください。

（『酒飲みの社会学』清水新二著、新潮社、2001年、581円+税）

「酒飲みの社会学」

清水新二
生活環境学部
人間環境学科
生活文化学講座
教授

SHINJI
SHIMIZU

新任教員紹介

①所属学部・職名 ②所属学科・専攻分野 ③出身地・出身校(学部、学科等別五十音順)



MKIEI KURIOKA 栗岡 幹英

- ①文学部 教授
- ②国際社会文化学科 社会情報学講座
社会学
- ③新潟県
新潟県立高田高等学校
京都大学 文学部
京都大学大学院 文学研究科

多様で寛容な社会へ

私の専門とする社会学は、輪郭の不明瞭な学問だ。大きな流れはあるが、研究者は各々好きなことをし、社会学と称している。幸福な状況だが、社会の輪郭も不明な時代に、学生諸君の反応は芳しくない。社会学の自負は、他者の尊厳を認め、多様性を許容する寛容な社会の形成に資することにある。私の目下の研究課題はHIV被害事件だが、血友病専門医と感染被害を受けた患者との関係がその後も良好かどうかは、とりわけ医師が患者の人格の尊厳にどれだけ配慮したかに依存したと考えている。医師にも患者にも、問題の渦中で柔軟に生きること、社会学が役立ったはずだと思うのだが。



MIKI NISHIMURA 西村 美紀

- ①文学部 助手
- ②人間行動科学科 教育文化情報学講座
教育学
- ③兵庫県
兵庫県立北須磨高等学校
神戸女学院大学 家政学部 児童学科
奈良女子大学大学院 文学研究科 教育学専攻
奈良女子大学大学院 人間文化研究科 比較文化専攻
ケンブリッジ大学大学院 修士 (MPhil) 課程研究方法論コース

どうぞよろしくおねがいします

こちらで大学院生として、W.H.キルパトリックの教育方法論を研究していた時に、チャンスがあり、イギリスを中心に色々な国の高等学校においてフィールドワークをすることができました。この経験から、現在異文化間教育学の分野で、特に異文化接触によるアイデンティティ構造の変化と異文化理解について試行錯誤を始めました。そこから、何らかの異文化理解教育への方策を見つけないかと思っております。

学生さん達の勉強や生活が有意義なものとなりますよう一杯頑張りますので、至らないところは多々あるかと存じますが、宜しくお願い致します。



TAKUYA HAYASHI 林 拓也

- ①文学部 助教授
- ②国際社会文化学科 社会情報学講座
計量社会学 社会階層論
- ③東京都
東京都立小川高等学校
早稲田大学 第一文学部
東京都立大学大学院 社会科学研究科

はじめまして

このたび東京から移動してきました。関西という新しい社会的世界を日々体験しています。社会の構造や、その社会にいる人々の意識の多様性は、体験して初めて実感できる場合もありますが、それをしっかりとらえ、またそのことを他者に伝えることはなかなか難しいものです。実感がつかみづらい「社会」的なものをとらえるひとつの手段として、調査データに基づき、数量として測定することを目指しています。まだまだ道半ばですので、試行錯誤を繰り返しながら、チャレンジしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



KUNIKAZU ISHII 石井 邦和

- ①理学部 助手
- ②物理科学科 物性物理学講座
原子物理学 放射線物理学
- ③東京都
東京都立八王子高級高等学校
東京都立大学 理学部 物理学科
東京都立大学 理学専攻修士課程
東京都立大学 理学研究科 物理学専攻博士課程

大学院へのお願い

自分の将来を決めるとき、企業、大学院進学等様々な選択肢がありいろいろ悩むと思います。企業という場を借りて自身の能力を発揮するのでもいいし、大学院進学して研究に打ち込むのも魅力的だと思います。私自身は大学院を選びました。

大学院に入って研究に携わると、世界的に活躍できるチャンスがいっぱいあると思います。自分を振り返ると徹夜で実験したこと、国際学会にて拙い英語で発表したこと等、つらいことも多かったですが、得たものも大きく充実した生活を送ることができたと思います。皆さんも井戸の中の蛙とならず、世界でNo.1を目指して一緒に研究生活を送っていきましょう。



KAZUHIKO SAEKI 佐伯 和彦

- ①理学部 教授
- ②生物科学科 分子・細胞生物学講座
ゲノム生物学 遺伝生物学
- ③富山県
富山県立富山中高等学校
東京大学 理学部 生物化学科
大阪大学大学院 理学研究科 生物化学専攻

『相利共生』しましょう!

マメ科植物と根粒菌の営む窒素固定共生は、お互いに利益を交換し合う相利共生の代表例です。共生に際して、根粒菌は植物細胞の内部に入り込んで機能します。多くの細胞内共生菌が宿主と離れた自由生活ができない絶対共生菌であるのに対し、根粒菌も宿主植物も、十分な窒素源があれば、共生しない自由生活を営むことが可能です。また過剰な根粒は形成されないという特徴もあります。私は、窒素固定反応と共生の成立・維持に必要な根粒菌の遺伝子を研究しています。細菌と植物との相互作用の研究を通じて、奈良女子大の学生とも「相利共生」して行きたいと考えています。



KATSUYUKI NOGUCHI 野口 克行

- ①理学部 助手
- ②情報科学科 自然情報学講座
大気科学
- ③北海道
北海道立札幌北高等学校
東京大学 工学部 精密機械工学科
東京大学大学院 理学系研究科
地球惑星科学専攻

奈良に移って

北海道に生まれ住んだこともあり、関西はもちろんのこと、本州さえも幼い時には遥か遠い土地でした。奈良は修学旅行のときにたずねた後、学生のときに二度来ましたが、やはり私にとっては遠い土地でした。この度奈良に住む機会を得て、毎日いろいろな発見があります。古い街並みや関西弁、ちょっとした習慣の違い。若草山の青々とした裾野や奈良公園の鹿たちを見ながら心を和ませることができるとても大きな魅力です。まだまだ慣れない土地で色々面倒をお掛けすること多々あるかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



KAZUKO NAKANISHI 中西 和子

- ①大学院人間文化研究学科 助手
- ②社会生活環境学専攻 社会・地域学講座
歴史地理学
- ③奈良県
京都市立塔南高等学校
奈良女子大学 文学部 地理学科
奈良女子大学大学院 文学研究科 地理学専攻
奈良女子大学大学院 人間文化研究科
博士後期課程複合領域科学専攻

どうぞよろしくおねがいします

長く学生としてお世話になった本学に、6月より着任いたしました。専門は歴史地理学で、主に織豊期の城下町プランの年代による変容を研究しています。

学生時代は南棟の1階の奥(南側)に長く住んで(?)いて、現在は新E棟の4階に研究室があります。大学の敷地内を南東の端から北西の端に向かって、斜めに(水平・垂直距離ともに)最大幅で移動したことになります。

学生時代にレポートを書いているときに窓を開けると突っ込んできた鹿の鼻先を少し懐かしく思い出しながら、ライトアップされた東大寺を見つめています。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

広部奨学金授与式

平成16年度広部奨学金授与式が、7月14日(水)に事務局管理棟第三会議室で行われました。

同奨学金は、本学卒業生の故広部りう殿(福井県出身 奈良女子高等師範学校本数科生物化学部1期生 大正2年3月卒業)のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度で、人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するもので、今年度は次の8人に証書及び奨学金が副学長(教育・学生支援担当)から贈られました。



文学部	国際社会文化学科	4回生	篠崎 千恵佳
文学部	人間行動科学科	4回生	竹家 一美
理学部	数学科	4回生	中村 碧
理学部	情報科学科	4回生	中川 真智子
生活環境学部	生活環境学科	4回生	篠原 雅代
生活環境学部	人間環境学科	4回生	本原 千佳
人間文化研究科博士前期課程	国際社会文化学専攻	2回生	桑原 佳子
人間文化研究科博士後期課程	人間環境科学専攻	3回生	五島 依里

授業料免除についてのお知らせ

平成17年度前期分授業料免除及び徴収猶予の出願書類の交付及び受付を下記のとおり予定していますので、出願を予定している人は忘れずに学生生活課奨学援助係で手続きを行ってください。

おって、詳細については1月下旬に掲載しますので注意してください。

出願書類交付:2月上旬~3月上旬
出願書類受付:3月上旬~3月中旬

第42回近畿地区国立大学体育大会結果について

第42回近畿地区国立大学体育大会(当番大学:和歌山大学)が8月4日(水)~26日(木)に開催され、熱戦が繰り広げられました。

本学は8種目に参加し、総合成績では惜しくも入賞を逃しましたが、次の団体・個人が見事入賞を果たしました。

《団体》卓球部	(第2位)
陸上競技	(第4位)
硬式テニス	(第4位)
《個人》陸上競技	
女子 100m	第3位 宮田知佳(文・3)
女子 800m	第1位 高橋里予(生・2)
女子 走幅跳	第1位 宮田知佳(文・3)

学長からの表彰制度が充実

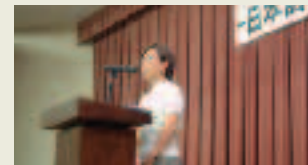
学生の課外活動や社会的活動等において、地区の競技会、展覧会等で3位以上の賞を受賞した場合や、公共団体等から表彰を受け、社会的に特に高い評価を得た場合、一定の基準により表彰に値する行為があったとされる学生個人や団体に対し

て、サークルの部長・主将、顧問・指導教員などの推薦により、学生生活支援室の審査を経て、学長から表彰がなされることとなりました。詳しくは、学生生活課学生生活課係まで問い合わせください。

外国人留学生による日本語スピーチ大会

11月8日(月)午後4時20分から、大学会館大集会室において、外国人留学生による日本語スピーチ大会が開催されました。今年は中国・韓国・南アフリカの3カ国からの9名の留学生が出席し、日本へ来て感じたことや、日本と自国との違いや交流、人と人とのつながり等をテーマに、大変興味深いスピーチが行われました。奈良地域留学生交流推進会議による外国人留学生スピーチ大会への代表選考

を兼ねているこの大会で、人間文化研究科博士後期課程 金 善勇さんが優秀賞に選ばれました。



出場者名と演題(発表順)

秦 建萍	(中国)「私が見た日本人」
ムロニエニ ネリッサ	(南アフリカ)「私の経験について」
馬 暁丹	(中国)「ありがたい人達」
金 ジェナ	(韓国)「真理はいつも也正当か」
張 華	(中国)「新しい日本・新しい中国」
洪 知延	(韓国)「韓国のブームについて」
張 靜	(中国)「日本に来て感じたこと」
居 丹華	(中国)「私のふるさと無錫」
金 善勇	(中国)「ネバネバ納豆と私」

学長主催留学生懇親会

11月8日(月)、外国人留学生による日本語スピーチ大会に引き続き、恒例の学長主催留学生懇親会が、大学会館生協食堂において開催されました。

留学生、日本人学生、教職員、留学生支援団体関係者等約90名の参加のもと、学長の挨拶、日本語スピーチ大会優秀者の発表・表彰があり、スピーチ大会出場者9名には、学長より記念品の贈呈が行われました。

重定副学長(国際交流委員長)による乾杯の発声に続き、新入留学生の紹介、留

学生による歌や踊りの披露、また民族衣装によるファッションショーも行われ、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



外国人留学生実地見学旅行

留学生が勉学や研究から一時離れて、相互理解を深め、親睦を図りながら日本文化の見聞を広め、日本をより深く理解することを目的に、9月16日(木)、17日(金)の両日、留学生実地見学旅行が実施されました。

この見学旅行は毎年企画されていますが、今年は留学生38名をはじめ日本人チューター、日本語担当教員及び事務職員の総勢43名の参加のもと鳥取方面へ向かいました。因州和紙の産地である佐治村で紙すき体験をし

た他、鳥取砂丘の見学、梨狩りを行いました。また、宿泊地となった羽合温泉では、温泉を初めて体験する留学生もいました。2日間、楽しく過ごすことができ、たくさん思い出をつくることができました。



奈良女子大学
〒630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL0742-20-3235

発行日:2004年12月1日
発行:学園だより編集委員会
印刷所:共同精版印刷株式会社